

Staff Voice

先輩薬剤師の声

私たちと一緒に
働きましょう！



勤続13年

☑ 調剤薬局から

調剤薬局を2年経験したのちに、この病院で働いて10年以上たちます。はじめは病院経験がなくて不安でしたが、丁寧な指導もあってすぐ慣れました。現在は感染対策や医療安全に携わっています。部署の垣根を越えて仲がいい雰囲気も、私にとっては長く働けている秘訣かもしれません。



勤続8年

☑ 療養病院から

療養病院や調剤薬局での勤務を経験し、当院に勤務して8年目になります。現在はNST領域や褥瘡領域に携わっており、回診や委員会などで医薬品の適正使用に努めています。未経験の分野でもグループ病院ならではの研修会もあり、他職種の方とも話しやすく、薬剤提案が行いやすい環境で、今の仕事にとってもやりがいを感じています。



勤続10年以上

病院未経験で60歳よりパートで勤務し、10年以上がたちました。時間的にも業務的にも無理なく続けられています。



勤続8年以上

他病院を60歳で定年後、こちらで週4日勤務しています。自分の時間を大切にしながら、無理せず良い雰囲気でも働いています。



勤続1年目

週2日短時間勤務をしています。(1日2時間ほど)初めての病院勤務ですが、親切な方ばかりで何事も丁寧に教えてくださるので、不安なく働いています。



勤続1年目

調剤薬局定年後、週4日で働いています。仕事一つひとつ焦らず丁寧にでき、前向きな考えの良い雰囲気でも色々教えてもらいながら、安心して働いています。



勤続1年目

25年ぶりの病院勤務は浦島太郎状態でしたが、スタッフ全員が親切でコミュニケーション抜群です。楽しく働いています。



勤続1年目

週2日午前中に働いています。以前は整形外科メインの病院にいました。不安もありましたが、「何度でも聞いてください」と優しく指導して下さるので、楽しく働いています。

enjoy yamagata
山形県を
楽しもう！



県内すべての市町村に温泉があります。食のネタは尽きません。蕎麦処として有名で、ラーメン消費量も日本一。お米がおいしいから、お酒もおいしい。果物・野菜もたくさんあります。芋煮やひっぱりうどんなど、複数人でわいわいできる食文化もあります。当院のある東根市は空港・高速IC・新幹線駅があり、交通の要衝でもあります。田舎と街のバランスが絶妙で暮らしやすい地域です。

山形蔵王



冬は東北ならではの雪景色。樹氷もきれいですよ！粉雪がキラキラ舞う晴天の雪山で、ウィンタースポーツをぜひ楽しんでください。

銀山温泉



ノスタルジックな温泉町もあります。足を踏み入れたらいきなり、非日常です。山形県内の温泉巡り、いかがでしょうか？

芋煮会

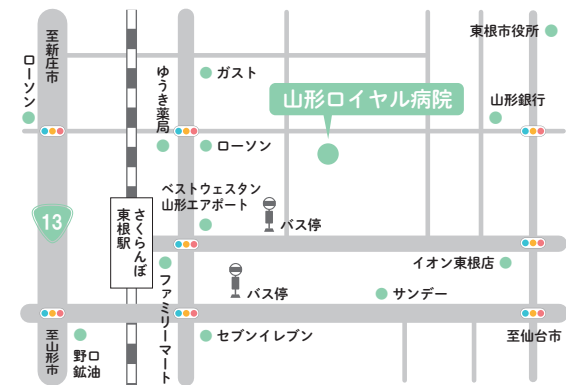


山形県民のソウルフードです。“食・人・酒”芋煮だけで半分山形県の縮図みたいなものです。みんなで食べましょう！

IMS(イムス)グループ 医療法人財団 明理会
山形ロイヤル病院

〒999-3712 山形県東根市大森二丁目3番6号
tel. 0237-43-8080 fax. 0237-43-8227

- JR 奥羽本線・山形新幹線
さくらんぼ東根駅前下車徒歩7分
- 山交バス
さくらんぼ東根駅前降車徒歩7分
一本木中央降車徒歩5分
- 車でお越しの方は
当院西側職員駐車場をご利用ください



YAMAGATA ROYAL HOSPITAL

PHARMACEUTICAL
DEPARTMENT

山形ロイヤル病院 薬剤部のご案内



薬剤師は 対物から対人へ

当院は山形県下最大の療養病床を誇る、慢性期病院です。

「患者さんに愛され、地域に信頼される慢性期病院」を理念におき、地域に貢献しています。

薬剤師は対物から対人へ。慢性期病院の薬剤師である私たちも、あるべき形を模索し続けてきました。

慢性疾患を複数抱える患者さまが多く、使う薬も多くなる傾向があるため、

2020年度より多職種カンファレンスを通したポリファーマシーへの介入を始めました。

また、服薬指導や各種ラウンドなど、病棟での業務割合も年々増加しています。

長く療養される患者さまも多いため、褥瘡領域における薬剤師の存在感も大きい病院です。

2021年度からは電子カルテも導入されるため環境も新しくなり、

良い変化を体感しながら業務できます。

10年近く働いている職員も数名おり、勤務年数も長めです。

興味のある方はいつでも連絡ください！

スタッフ一同、お待ちしております。



当院薬剤部における基本的な業務	
調剤(院内・外来)	監査(院内・外来)
薬剤鑑別	皮膚科ラウンド
薬剤管理指導業務	各種カンファレンス
DI業務	QC活動
委員会活動(医療安全・感染対策・褥瘡・NST)	

多職種連携で患者さまを支える

薬剤師に求められること

01 Comment 常勤医師より

日々薬剤師の方々には、時に処方ミスを教えていただいたり、こういう薬を使いたいといった問いに具体的なアドバイスをいただいたりしています。ポリファーマシーという言葉が世に出るまでは、多剤併用を強く意識することがなかったのですが、薬剤師の方が減薬のかじ取りをしてくれたりして助かっています。実際当院の患者さまにも減薬によりQOLが改善した例がありました。



褥瘡ラウンドの様子

02 Comment 病棟看護師より

褥瘡に使用する薬剤に迷ったときは、薬剤師の方々には褥瘡の病態に合った薬剤・創傷被覆材の使用提案を医師にさせていただくことで、治療期間の短縮につながっています。また、毎日の処置に対し外用薬の適正使用方法などをアドバイスしていただくことで、安心してケアもしていくことができても助かっています。

患者さまとじっくり向き合う

慢性期病院の薬剤師とは？

病院薬剤師ですので当然、調剤・監査・服薬指導、入院鑑別、委員会や公開講座などの地域貢献イベントなども行っています。急性期と慢性期と何が違うの？という方もおられるかもしれませんが、人が病気をしてから時間経過という事で言えば、急性期病床で短期的な治療をして、回復期病床でリハビリ等をして、慢性期病床で長期的な治療と向き合う、というのが一般的なイメージになるでしょうか。実はこれらの機能はどれも地域に無くてはならない重要なものです。

当院は322床すべてが療養病床です。急性期の病院などと比べれば高齢の入院患者さまが多く



入院期間も長いです。慢性疾患を複数抱える患者さまも多く、薬の種類も多くなりがちです。現在、ポリファーマシーという言葉が世間的にも認知されつつありますが、当院はその問題に対する取り組みをすでに始めています。またベッドの上で長く療養される患者さまもおりますので、褥瘡などにも積極的にかかわっています。褥瘡の状態に応じた処方提案も行っています。まさに今、日本は超高齢化社会です。そんな時代の中で、高齢者医療を中心に患者さまの治療・療養・在宅復帰などに日々寄り添っていただけることに、私たちは生きがいを持っています。

当薬剤部の教育のモットーは、 “常に質問しやすい雰囲気であること”

仮に同じ質問をされても丁寧に答える。

当院の先輩薬剤師たちは、その心の準備ができています。

グループ病院だからこそ

グループだからこそ勉強する機会、成長する機会が多くあります。

“こんな薬剤師になりたい”という声にこたえるサポート力が自慢です。

新人研修・年次別研修・
専門認定研修など

中間管理職研修

薬剤部長研修

グループ病院
だからこそできることが
沢山ありますよ！

生涯教育体制

- ・新入職オリエンテーション
- ・1年次フォローアップ研修
- ・2、3年次研修会
- ・4、5年次研修会
- ・中堅管理職研修会(初級)
- ・中堅管理職研修会(上級)
- ・薬剤部長研修会

専門・認定研修テーマ

がん
領域

感染
領域

NST
領域

腎薬物
領域

糖尿病
領域

